

『神の命の息吹によって』 エゼキエル37:1-14

37:1 主の手がわたしに臨み、主はわたしを主の霊に満たして出て行かせ、谷の中にわたしを置かれた。そこには骨が満ちていた。

37:2 彼はわたしに谷の周囲を行きめぐらせた。見よ、谷の面には、はなはだ多くの骨があり、皆いたく枯れていた。

37:3 彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの骨は、生き返ることができるのか」。わたしは答えた、「主なる神よ、あなたはご存じです」。

37:4 彼はまたわたしに言われた、「これらの骨に預言して、言え。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。

37:5 主なる神はこれらの骨にこう言われる、見よ、わたしはあなたがたのうちに息を入れて、あなたがたを生かす。

37:6 わたしはあなたがたの上に筋を与え、肉を生じさせ、皮でおおい、あなたがたのうちに息を与えて生かす。そこであなたがたはわたしが主であることを悟る」。

37:7 わたしは命じられたように預言したが、わたしが預言した時、声があった。見よ、動く音があり、骨と骨が集まって相つらなった。

37:8 わたしが見ていると、その上に筋ができ、肉が生じ、皮がこれをおおったが、息はその中になかった。

37:9 時に彼はわたしに言われた、「人の子よ、息に預言せよ、息に預言して言え。主なる神はこう言われる、息よ、四方から吹いて来て、この殺された者たちの上に吹き、彼らを生かせ」。

37:10 そこでわたしが命じられたように預言すると、息はこれにはいった。すると彼らは生き、その足で立ち、はなはだ大いなる群衆となった。

37:11 そこで彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言う、『われわれの骨は枯れ、われわれの望みは尽き、われわれは絶え果てる』と。

37:12 それゆえ彼らに預言して言え。主なる神はこう言われる、わが民よ、見よ、わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓からとりあげて、イスラエルの地にはいらせる。

37:13 わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓からとりあげる時、あなたがたは、わたしが主であることを悟る。

37:14 わたしがわが霊を、あなたがたのうちに置いて、あなたがたを生かし、あなたがたをその地に安住させる時、あなたがたは、主なるわたしがこれを言い、これをおこなったことを悟ると、主は言われる」。

●序論

明らかに、そこに命のかけらもない無数の「殺された」と表現される人々の骨のありさま。その意味は、11節以降に記されています。枯れ骨はバビロン捕囚の中すでに何年もの時を過ごして望みを失い、ある意味、霊的に生きた屍のようになっていたイスラエルの民のことを表していました。

37:11 …「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言う、

『われわれの骨は枯れ、われわれの望みは尽き、われわれは絶え果てる』と。その彼らが神の御言葉の宣言によって生き返る経験をしていくというありさまを、ここでエゼキエルは体験していく。それがこの物語の語るところです。

●本論

I. 枯れ骨の中に置かれる経験

イスラエルの民はバビロンの支配のもと、望みも消え失せた中で過ごすようになっていきました。彼らは神の言葉を聴くことも、聞いても受け取ることも、そこに希望を持つことさえできなくなっていたのです。

谷を覆いつい尽くすほどの枯れ骨、そのみじんも生気のない乾ききった骨でもって表現されているイスラエルの民の失意・敗北感によって、彼らはその尊厳を奪われ、神信頼も、道徳も、アイデンティティも失っていくかのようでした。

:11 …見よ、彼らは言う、『われわれの骨は枯れ、われわれの望みは尽き、われわれは絶え果てる』と。

エゼキエルはそこに、神によって遣わされていることが示されています。

37:1-2 主の手がわたしに臨み、主はわたしを主の霊に満たして出て行かせ、谷の中にわたしを置かれた。そこには骨が満ちていた。彼はわたしに谷の周囲を行きめぐらせた。見よ、谷の面には、はなはだ多くの骨があり、皆いたく枯れていた。

神は、エゼキエルを主の霊に満たして遣わされたとあります。

生気を失った枯れ骨状態の人々の中に置かれる。神とのつながりによって生気に満ちたエゼキエルが遣わされる。クリスチャンのありさまを物語るものではないでしょうか。

II. 信仰を問われる経験

37:3 彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの骨は、生き返ることができるのか」。

今、彼らは神を失い「枯れ切った骨」となっているのです。その現状は、いのち0（ゼロ）、生気0の状態です。

「生き返る？」実際に、そんなことがあるのか？ あり得るのか？

神さまがエゼキエルになさった問いかけにどうこたえるでしょうか？

神の霊に満たされ導かれたエゼキエルはこう答えました。

…わたしは答えた、「主なる神よ、あなたはご存じです」。

わたしたちの常識では、その可能性0%でしょう。

でも、神の御手に導かれたエゼキエルは、神に問われて、彼は神のなさろうとしておられることに心が向けられました。神の力、神の働き、神の御心があれば…と。

ある人はこのエゼキエルの答えは、あまり信仰的とは言えない…、「もちろんおできになります」という答えこそ正解だろう…という人もいます。

しかし、エゼキエルは、そのすべてを御心のままになさる神さまの良い裁量におゆだねして答えているのです。神さまのなさることに信頼しているのです。

「主なる神よ、あなたをご存じです」と。

わたしたちには神の時があります。泣くに時があり、笑うに時がある。

神のなさることは皆その時にかなって美しい。（伝道者の書3:11）にあるように、神さまの御心が行われることを望み、受け入れることの大切さを覚えたいのです。

イエスさまの十字架を前にしたゲッセマネの祈りを思い起こします。

マタイ26:39…「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」。

イエスさまもまた、すべてを父なる神さまのなさろうとされる善い裁量、良い知恵にすべてをおゆだねになった。それが信仰の祈りであったのです。

わたしたちはこの事態下でやはりエゼキエルのように問われているのではないのでしょうか。

「人の子よ、これらの骨は、生き返ることができるのか」と。

わたしたちはどう信頼によって答えるのでしょうか？

Ⅲ. 御言葉に応答する経験

更にエゼキエルは、ここで神に、この枯れ骨に命じるように言われました。

37:4-5 …「これらの骨に預言して、言え。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。主なる神はこれらの骨にこう言われる、見よ、わたしはあなたがたのうちに息を入れて、あなたがたを生かす。…

37:9-10 …「人の子よ、息に預言せよ、息に預言して言え。主なる神はこう言われる、息よ、四方から吹いて来て、この殺された者たちの上に吹き、彼らを生かせ」。そこでわたしが命じられたように預言すると、息はこれにはいった。すると彼らは生き、その足で立ち、はなはだ大いなる群衆となった。

すべて神の霊に満たされ、導かれ、命じられたエゼキエルが、神の言葉に応答してそこで語ったことによって起こったわざです。

まさに「いのち0」「生气0」「希望0」だった人たちが生き返り、そこで希望といのちを回復される。そしてそのすべてを、神がなさったと語るのです。

（新共同訳）

37:13 わたしが墓を開いて、お前たちを墓から引き上げるとき、わが民よ、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。

37:14 また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生きる。わたしはお前たちを自分の土地に住まわせる。そのとき、お前たちは主であるわたしがこれを語り、行ったことを知るようになる」と主は言われる。

いのちを微塵も感じさせない枯れ骨を生き返らせたのは、神からくるいのちの息吹です。

37:14 また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生きる。

イエスさまの御言葉にもこうあります。

ヨハネ11:25 …「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。」

●最後に、神さまは枯れ骨状態であったイスラエルの民に、ただ希望与え、命を与え、生きる者としてくださったことで終わってはいません。神さまは、世界中のすべての人が生き、回復されるように、救いのための御業をなされました。

1ヨハネ4:9 神はそのひとり子（イエス・キリスト）を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

神さまはただ遠くから愛しているよ、だから大丈夫だよ…とされているのではなく、ひとり子を遣わし、その汚れない命を犠牲にして、わたしたちを罪という枯れ骨状態から回復し、生きる者としてくださいました。

だから今、生かされているわたしたちには語る言葉が与えられているのです。それが福音です。

人間的な力や言葉や方法が通用しない状況や問題、悩みや絶望があっても、神さまがわたしたちをその霊で満たし、言葉をゆだねてくださるとき、わたしたちはそれを語り表すことで、わたしたち発出の力ではない、神の息吹がそこに働かれることを知ることができるでしょう。

私たちにゆだねられている福音の言葉は、「イエス・キリストこそまことの救い主。命の主です」という信仰の告白です。

人には愚かに見えた、あのキリストの十字架こそが、唯一の答えです。神がわたしたちに示された真実な愛、神の救いの力なのです。このキリストに結ばれて生きるならば、わたしたちは、神を知り、真実な愛を知り、希望を知り、命を知ることができるのです。

この方こそ、神の力、神の知恵ですと。